みぬま通信 第81号
2020年01月

見沼たんぼくらぶのイベント

京芋・里芋・八つ頭収穫　福祉施設と保育園児も参加

１１月１４日(木)ふれあい農園１号地の京芋・里芋・八つ頭の収穫日である。４月２６日(水)の種芋の植付から更に除草・畝上げなどの作業を炎天下の夏季を経て８回目に当たるこの日となった。幸い晴天に恵まれた。７回目の１０月２４日(木)の試掘りの結果ではかなりの収穫が期待できることが確認されていた。一方、２号地の秋野菜栽培が異常気象や台風の影響から極めて不成績となったことに対する２号地参加者へのささやかな手土産とすることも可能となったので、事前にその対応分の収穫も済ませてあった。

８時集合、朝の集会の後、会員応募者による収穫作業が実施された。８時の作業開始は早いが、暑い夏場作業が多いことの名残である。この地での栽培経験のある方が多い参加者たちは手際よく掘起こし、親芋からの子芋の選り分けなどが順調に進み、１０時にこの収穫物の寄贈のためにお呼びした福祉施設・保育園４法人の皆さんが到着以前に作業は終了する。

参加の法人は所定の畝の収穫を夫々に実施する。保育園は年長組１９名と先生４名による参加で、園児達は里芋などの掘出し・その籠詰め・運搬作業などを先生と共に一生懸命に行っていた。収穫全作業終了後、直ちに、畑の耕耘・菜種蒔きを実施する。明春の菜の花イベントの準備である。　　（若野忠男記）

第１０回清掃ボランティア

好天に恵まれた１１月４日の文化の日の振替休日に、参加者５１名で見沼たんぼ清掃ボランティアがさいたま市北区の見沼グリーンセンター周辺で行われました。

清掃コースは見沼グリーンセンター正門前を起点に、風車のある見晴らし公園周辺を全員で、その後芝川沿いの神明下橋から石橋までの約１キロを二班に分かれ、正門前に戻るコースで行われました。

今年は度重なる台風と大雨の影響で芝川土手沿いに漂流物のごみが多く見受けられました。回収した廃棄物は不法投棄のテレビや空き缶、弁当殻、ペットボトルなどがありました。

参加者は２時間弱の活動終了後､飲み物とＮＰＯ法人見沼ファーム２１が見沼たんぼで減農薬･有機肥料で栽培した新米「彩のキズナ」が手渡され解散となりました。

参加した２０代の女性は「初めて来ましたが、気持ちいい汗をかきました。とても充実した気分です。来年も参加したいです。」６０代の男性は「爽やかな陽気で、快適に清掃できました。台風１９号の影響でいつもよりごみの量は多かったような気がします。」などと話をしていました。なお、今回の清掃活動の模様はテレビ埼玉にて、当日の夕方と夜のニュースで放映されました。

（三上　雅央記）

見沼たんぼくらぶのイベント

見沼塾「見沼たんぼの昆虫観察」

（参加者１８名）

９月７日（土）見沼自然公園で、昆虫観察会を行いました。講師にはお馴染み、埼玉県昆虫談話会の牧林先生、鷲先生にご指導を頂きました。

空には絵に描かれたような夏雲が浮かび晴れだが、台風１５号が接近中ということで木陰でも風が生暖かい。

まず公園の草原に立って「聴いたり目視できるのは？」の問いに、ミンミンゼミ・アブラゼミ・ツクツクボウシ・ヤマトシジミ・アカボシゴマダラ・ウラギンシジミ・アオスジアゲハ・ナミアゲハ・ヒメウラナミジャノメ・メスグロヒョウモン・クロアゲハの名があがる。そして草原の上にはウスバキトンボがすいすいと飛んでいる。

「以前の見沼たんぼは、湿地性の昆虫が多く生息していたが、近年は乾燥地性の昆虫へと移行して来ているし、温暖化の影響で南方系昆虫が冬越して繁殖している」とのことです。

○アブラゼミの抜け殻を見つけて、アブラゼミが脱皮する時に、幼虫は枝葉の先まで進み、180°Uターンして脱皮するお話

○バッタ類とキリギリス類の区別のお話。（写真）

	触角	羽の合わさり	鳴き音
バッタ	短い	右側が上	羽と足擦り
キリギリス	長い	左側が上	羽をこする

池の西側の腐植土の所に、カラスの食痕と思われるカブトムシの残骸が多数見られた。

（五十嵐　力記）

ふれあい農園づくり　　秋野菜栽培

今年は例年に無く、虫による食害・台風１５・１９号の風雨、集中豪雨による冠水によって、種は流され３回もまき直ししました。

１０月２６日（５回の内４回目最終の除草日）畝は流され、発芽した野菜苗は根が浮き出ている無残な状態でした。参加者に今年の状況を説明しましたが、誰一人として小言なく「仕方ないよね」「子供と来て作業するのが楽しいから、そこまで・・・」の声も頂きました。この日も根の浮いた野菜苗を土寄せ・除草をしました。

１１月９日（収穫祭当日）、前回痛んだ圃場を見た参加者は収穫祭に来てくれるだろうかと心配していましたが、ほぼ同数の３９家族と個人が参加され、僅かでしたが小松菜が収穫できました。この他赤カブ、大根、春菊、ほうれん草等も残っていましたが、まだ小さな苗なので収穫を止めました。

参加者に「圃場を解放しているので、あとひと月の間に、都合の良い時摘みに来てください」と伝えました。当クラブや関係の団体・個人から協力頂いた野菜・お米をお渡ししました。渡している時、参加者から「楽しかったですよ」、「来年もお願いしますね」の声を頂き、少し救われた気持ちです。参加者の笑顔・子供の歓声などが、作業を手伝った私たちの喜びや励みになります。

次回こそ防虫・暴風雨対策し、参加者が蒔いた種を育てる楽しさ、収穫のわくわく、土の感触等いっぱい持ち帰って貰えるよう努力したいと思います。

（鑓水　和夫記）

見沼たんぼくらぶイベント

第７９回見沼の自然と史跡を訪ねて

９月１５日（日）　　５５名参加

大宮台地片柳・染谷支台から加田屋川低地へ
常泉寺…加田屋たんぼ…旧坂東家住宅

（イ）常泉寺―生命の尊厳を訴える

【広島・長崎の火モニュメント】
原爆が投下された焼け跡に残された反核の火が住職によって灯され続けている。

（広島・長崎の火モニュメント）

【朝鮮人慰霊碑】
関東大震災の折、染谷でもデマに踊らされ、若者が通りすがりの朝鮮人を殺害した。後に無実の殺害と分かり、村人が墓碑を建立した。

（朝鮮人慰霊碑）

【蓄霊の墓】
大きな供養塔があり、その近くに飼い犬や飼い猫の墓が名前も刻まれ、沢山並んでいる。

（ロ）黄金の稲穂棚引く加田屋たんぼ

栽培する無農薬の稲田は、イナゴが飛び跳ね、絶滅危惧種のキクモとミズワラビとサンショウモが自然復元していた。

（ハ）旧坂東家住宅は安政４年の建造物

ゴールの旧坂東家住宅は、１６５７年（安政４年）の建造物。木造平屋・茅葺で東西３０ｍ・南北１４ｍ・床面積２８６㎡。当時では大きな住宅。　　（小野　達二記 ）

第８０回見沼の自然と史跡を訪ねて

１１月２３日（土・祝）雨　１４名で

大宮駅東口から大いなる宮居へ
氷川参道…氷川神社…大宮公園

（イ）氷川参道は歩行者天国

約２㎞もある日本一長い参道は、車の走行を認めず、一年中が歩行者天国だ。延々と続く並木の下には所々ベンチが置かれ、快適な散歩道にも使われている。
並木の６割は埼玉県とさいたま市の木・ケヤキである。

（ロ）見沼の水神を祀る氷川神社

神社の入口でもある三の鳥居をくぐって、まもなく神池が現れた。江戸時代中期まであった広大な見沼の入江跡である。

（ハ）大宮公園は埼玉県初の県営公園

１８８５年（明治１８年）、埼玉県で最初の県営公園が氷川公園と言う名称で誕生した。
明治・大正時代は、都市公園と言うよりは、自然緑地の中に割烹旅館や茶店のある観光地のようだった。その後、自然景観を保ちながら運動場や遊園地もある総合公園になった。当日は、アカシデの古木や一等水準点（海抜１５．１ｍ）、ボート池（水鳥）を基本コースに見て回った。　　（小野　達二記）

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説　　八木一郎

晩秋の見沼くらしっく館・旧坂東家　（見沼区　片柳）

セピア絵具を主体にグリザイユ手法を用いて旧坂東家の一角を描く。師走も残り少なくなった晩秋の半ば穏やかな１日、茅葺屋根を彩る黄・橙・赤の落ち葉が印象に残った。

浦和くらしの博物館　民家園の移設商店

高野せんべい店と綿貫肥料店を旧状に戻した形で移築したもの。旧高野家住宅は茅葺屋根の商家建築で、中山道にひらけた浦和宿の中では最も古い建物の一つ。明治になり中山道沿いの岸町７丁目で営業をしていた江戸末期の建築。

瓦屋根の旧綿貫家住宅は浦和区常盤２丁目で、雑貨や砂糖などを扱っていた店蔵。防火に優れた塗屋造りで、虫籠に似た「虫籠窓（ムシコマゴ。格子の窓が特徴）」で江戸末期頃の建築。

大門本陣　（さいたま市緑区大門）

大門宿は日光御成街道の江戸から３番目の宿場で、本陣と脇本陣があり、徳川将軍が日光東照宮参詣の際は岩槻城に宿泊し、大門宿には供奉する幕臣が分宿した。

この本陣表門は門塀の両側に部屋が付属する長屋門形式で、１６９４年（元禄元年）に建立、１８２４年（文政７年）に修理されている。

脇本陣は本陣のはす向かいにあり、門構えが１間引き込んだ所にある長屋門。本陣の壁が大壁で縦格子窓付きの番所があるのにたいし、番所が無い。二つの表門とも大門宿の姿を伝える貴重な遺構。

日光御成街道は本郷追分で中山道から分かれ幸手宿で日光道に合流する。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

睡蓮の花　終わる　（見沼自然公園）
作者　　斎藤　玲子

暑かった夏も終わり、秋風が吹き始める頃には、睡蓮の花も姿を消し始めます。でも近づいてみるとがんばって咲いている花花もあります。なんとなく心寂しくなる時です。

見沼たんぼ探訪記

芝川第七調節池と台風１９号

マリアナ諸島の東海上で発生した台風１９号は、１０月１２日、大型で猛烈な強い勢力で伊豆半島に上陸し、東海・関東地方を中心に記録的な大雨を降らせながら、関東地方を横切って行った。

１３日、未明まで激しく降り続いた雨が止んだので、大宮第２公園の東側にある芝川第７調節池に行く。この池は昭和５７年（１９８２）に、芝川水量調節計画の一部として造られたもので、上流からの洪水の一部を一時的に貯留し、下流の流量のピークを低減する施設になっている。芝川の両岸に沿って造られており、総面積は１５．２ha、貯水量は３６．９万㎥である。

右岸の調節池の底部はひょうたん型になっており、普段は、のんびりと釣り糸を垂らした人たちの姿が見られるのであるが、この日ばかりはその

ような様子は一変してしまい、自分の目を疑う程になってしまっていた。台風１９号の影響で、池は満々とした水で覆われてしまい、まるで大きな湖のように変わってしまっているのである。左岸の方も同様であまりの激しい変わりように、びっくりし、恐怖感すら抱くのだった。

大雨を心配された近所の人たちも、調節池のあちこちに来ており、「すごい量の雨が降ったのですね･･･」、「昨夜は強い雨音で眠れなかった･･･」等々、いろいろな会話が聞こえてくる。台風１９号は日本列島の半分以上を覆うほどの大型な上、昭和３３年に上陸し、大きな被害を出した狩野川台風に勢力や進路が似ているという。

台風１９号の被害が、最小であってほしいと心より願う次第である。　　（召田　紀雄記）

丸ケ崎地区を訪ねて

「丸ケ崎」という地名は明治政府が編纂をした、「武蔵の国郡村誌」によると、天正２０年頃岩槻城近くの原野であった場所が移住者により開墾されやがて現在の丸ケ崎の集落ができたとある。

さいたま市の地図で見ると、北側は蓮田市との境になっていて東側は岩槻区に隣接している。

明治になり綾瀬川と見沼代用水が繋がると、米や麦の他に、蓮根や田鳥子(くわい)その他長芋などの生産が盛んに行われるようになった。

昭和３９年には東大宮駅が営業開始され、その後昭和５６年は国道１６号東大宮バイパスが開通し次第に都市化が加速されてはきたが、今でも「丸ケ崎田圃」と呼ばれる広大な水田が繋がる地域は市内でも極めて数少なく貴重な自然資源である。

自然農法と生物多様性とがほどよく調和され、絶滅危惧種としての野草や昆虫も豊富で、四季を通してやってくる野鳥も多い。

岩槻城下から原市をつなぐ旧道沿いには、元禄時代の庚申塔のある観音堂や寅子姫伝説の子膾神社などがあり、道端にも地蔵尊や馬頭観音が立

（１０月の自然観察会風景）

ち並び歴史を訪ねる場所としてもお勧めしたい。

JR 東大宮駅から路線バスに乗り「アーバン未来」で下車するのが便利かと思いますので、どうぞ一度お訪ね下さい。

（佐々木　明男記）

見沼たんぼの仲間たちNo. 52

見沼たんぼくらぶとの出会い

㈱アステック　佐藤　清章

私は、生まれが東京府南多摩郡、育ちが北海道函館市、今はなぜかさいたまです。旧浦和市に来て、５７年になります。浦和に本籍も移し、お墓も浦和の常盤に用意し、父と弟を函館から移し、母も入っているので、浦和に骨を埋めます。

見沼たんぼくらぶとの出会いは、なんだったのか覚えていません。たしか、「彩の国だより」で「見沼

ふれあい農園づくり」を見たような気がしますが、農業の体験だったでしょうか？　会員募集だったでしょうか？　畑の事は、何も知らない私でしたが、参加させていただくことにしました。それがご縁で、今年で７～８年くらいになると思います。

そんな私を、副会長で農業の厚澤さんをはじめ、副会長の三上さん、理事の砂長さんに、耕転、除草、施肥、畝づくり等々色々と教えていただき感謝申し上げます。そして少しずつ、見沼たんぼくらぶの会員として、みんなと触れ合えるようになってきました。

県民参加秋野菜栽培では、耕転、除草、施肥（鶏糞・化成肥料）畝づくりをして、畑の中央に通路をつくり、左右に４６畝、計９２畝をつくりますが、畝が曲ったりして苦労しました。

しかし県民公募申込者が、毎年１５０名前後の人達が来て、最初に種蒔きをし、除草から収穫と行われますが、親子が楽しそうに交流しながら作業する姿や、子供が、虫取りに夢中になっているのを見ると、苦労も吹き飛んでしまいます。

私は「浦和ロータリークラブ」に入っております。その中に「健康クラブ」があります。その健康クラブ全員に、見沼たんぼくらぶに入っていただきました。そして、自然観察ハイキングの「見沼の自然と史跡を訪ねて」の案内を、健康クラブを中心として、ロータリークラブ全会員１１０名に、４回ほど送りました。

そしてその中から、２～３年で転勤する、支店長さんご夫妻に参加していただいたり、メンバー６人程が参加して、喜んでいただきました。これからはもっともっと参加してもらうため、努力をしなければいけないと思っております。

私の仕事は「建築設備業」で、空調・給排水の設計・施工・修理をしております。浦和で起業し、今年で５１年になりました。今は愚息が後を継いでいるので、私は、畑、たんぼ、ホタルの育成、陶芸、

ふき矢、スキーをやっております。スキーは指導員をめざしております。平成２５年春には「旭日双光章」をいただき、今後は、少しでも何かお役に立つことが出来ればと思っております。

感謝合掌低頭

見沼たんぼを支える農家さん

武笠佳司さん

関東各地に甚大な被害をもたらした１０月の台風１９号。見沼地域もまた、近年なかったほどの広い範囲で農地が水没しました。三室・三浦地区でずっと農業を営んできた武笠佳司さん。この地域の水との関わりを長年見つめてきました。今回は、水を中心にお話を伺いました。

１９５８年の狩野川台風の際に、見沼たんぼの遊水機能が注目され、原則として宅地化を制限されたことでこれだけの緑地空間が保たれてきたのですが、これまでも２～３年に一度は台風などで水の被害を受けてきました。特に畑への転換がすすめられた後は、水が出ると野菜や植木は泥を被って出荷できなくなったり、根腐れをおこして枯れてしまったり、苗が流されてしまったりと様々な被害を受けてきました。

長年そこで耕作している農家はどこに水が出やすいかわかっているので、水没しやすい畑には水に強い里芋や八ツ頭を植えて備えてきました。でも高齢化が進み自身で耕作できなくなり後継者もいないと、農地を貸し出すしかなく、そのためには土を盛って畑としての条件を良くしないと、なかなか借り手が見つからない。

（水没した農地（右が盛り土した所、左はしていない））

盛土をして農地を高くすると水の被害を防げます。そうするとそこは水害から免れますが、水が減るわけではないので、水は次の低地へと流れる。すると新たに水没する場所ができて、盛土をする。するとまた次に低くなった場所に水が出る・・・という繰り返しになってしまう。しかも元々湿地だったため、土を盛っても５年ほどで沈下が始まり、１０年もすれば道路と同じ高さに戻ってしまうそうです。

かつては皆顔見知りで共同の作業などもスムーズに行えたそうですが、今は不在地主も多く、お互い見知らぬ間柄の人が増え、地域全体のつながりも希薄になって意思の疎通が難しいのが現状だそうです。また、見沼では新規就農者も増えてきていてそれは嬉しいことなのですが、水との歴史を知らないため苦労している人から相談を受けることも多く、心を痛めています

遊水機能を保ちながら農業と両立させることは容易なことではありません。これまでその対処は個々の農家に任せられてきました。しかし、もっと計画的に構想を考え、大きな方向性を打ち出さなければもはや立ち行かないのではないか、と武笠さんは危惧しています。

（武笠佳司さん）

武笠さんの家もご両親の代は主に米を作っていましたが、佳司さんが農業を始めた頃は畑への転換がすすめられた時期と重なったこともあり、需要の多かった苗木や植木の栽培に切り替えました。６０歳を過ぎてからは体力的にきつくなったので、野菜の栽培を中心にしています。芯まできれいな紅色で辛味も少なくサラダやお漬物に最適の「見沼大根」は、種苗家と連携して生まれたオリジナル品種。精悍な面立ちの武笠さんですが、静かに見沼を語る時の遠くを見つめるような優しい眼差しが、初冬の光の中で陽だまりのように暖かでした。

（芯まで紅い見沼大根）

取材　：　島田由美子・高橋いずみ
文責　：　高橋いずみ

（武笠さんの野菜はステラタウン大宮わくわく広場、マミーマート三室山崎店で販売しています）

見沼たんぼくらぶのイベント案内

第120回見沼塾『見沼たんぼの野鳥観察』

２月２日（日）９時３０分～１２時
大宮第二公園休憩ロビー前集合
講師：小峯　昇
（ＮＰＯ法人自然観察指導員埼玉代表理事）
申込み：当日、集合地で９時～９時３０分受付
参加費：無料
交通：東武野田線大宮公園駅から徒歩約２０分

会員の主宰するイベント情報

第２５７回見沼たんぼ緑地の自然観察会

１月１９日（日）９時３０分～１２時
見沼自然公園休憩ロビー集合

主催：ＮＰＯ法人自然観察さいたまフレンド
◆ 自然観察指導員のガイドでテーマ別行動
① 樹木の冬芽観察
② 野草の越冬スタイル
③ 野鳥観察
申込み：当日、集合地で９時～９時３０分受付
参加費：￥５００（中学生以下は￥１００）
交通：大宮駅東口からバス⑦締切橋下車、南側
（約３０分乗車）

見沼スケッチ会第１３回水彩画展
《さいたま市教育委員会後援》

日時　２月１１日（火）～１６日（日）
９時～１７時（最終日は１５時まで）
会場　さいたま市立大宮図書館 展示室

◆ 当会は、旧坂東家住宅見沼くらしっく館を拠点に、毎月第１火曜日に見沼の風景を主なモチーフにして初心者も経験者も一緒に水彩画を勉強している同好会です。
連絡先　主宰　八木一郎　☎(048)822-5504
代表幹事　落合秀幸　☎(048)684-3123

見沼たんぼくらぶ
２０２０年度会員募集！
見沼たんぼをもっと知りたい
見沼たんぼの自然にふれてみたい
見沼たんぼ保全に協力したい
そんな皆さまをお待ちしています！

◆ 季刊『みぬま通信』を郵送します。
４月・７月・１０月・１月発行
◆ 埼玉県土地水政策課の支援のもとに、見沼たんぼ地域の里やまで、様々の体験事業を展開しています。子どもから年寄りまで気楽に楽しめるイベントです。

○…見沼ふれあい農園づくり
農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、種蒔き・植え付けから除草、収穫までの作業です。親子の参加を大歓迎。
○…自然観察ハイキング
自然観察指導員のガイドで史跡を巡り、植物や小動物を見て歩きます。
○…見沼たんぼ清掃ボランティア
見沼たんぼを貫流する芝川周辺を散策し、ゴミを収集します。
○…斜面林の体験学習
○…見沼塾
見沼たんぼの自然や文化を学ぶ講座

◆年会費　１口￥１，０００
個人（同居の家族単位）：１口以上
企業、団体：３口・￥３，０００以上

みぬま通信第81号

発行日　令和２年月１日
発行所　見沼たんぼくらぶ
〒３３７－００５３　さいたま市見沼区大和田町１－２１２４－３　小野方
TEL・FAX　（０４８）６８３－１７６４
E-mail　t.ono@axel.ocn.ne.jp
ＵＲＬ　http://minumatanbo.web.fc2.com/

© 2020 Minuma Tuusin